

浜の活力再生広域プラン

令和8～12年度

（第3期）

1 広域水産業再生委員会

組織名	はこだて広域水産業再生委員会
代表者名	会長 坂田 憲治（南かやべ漁業協同組合 代表理事組合長）

広域委員会の 構成員	函館地域水産業再生委員会（函館市漁業協同組合、函館市） 銭亀沢地域水産業再生委員会（銭亀沢漁業協同組合、函館市） 戸井地域水産業再生委員会（戸井漁業協同組合、函館市） えさん地域水産業再生委員会（えさん漁業協同組合、函館市） 南かやべ地域水産業再生委員会（南かやべ漁業協同組合、函館市） 渡島地域水産業再生委員会（函館渡島イカ釣漁業協議会、函館鮭鱒漁業組 合、函館市）、北海道、北海道漁業協同組合連合会、北海道信用漁業協同組 合連合会、全国漁業信用基金協会北海道支所、北海道漁業共済組合、全 国共済水産業共同組合連合会北海道事務所
オブザーバー	—

対象となる地 域の範囲及び 漁業の種類	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 対象となる地域の範囲：北海道函館市（函館市漁協、銭亀沢漁協、戸井漁協、えさん漁協、南かやべ漁協）</li> <li>○ 函館地域水産業再生委員会 組合員数 143 人 イカ釣り漁業（37 経営体）、刺し網漁業（25 経営体）、サケ定置網（3 経営体）、底建網・小定置網漁業（21 経営体）、コンブ養殖漁業（42 経営体）、採介藻漁業（118 経営体）、一本釣り漁業（58 経営体）</li> <li>○ 銭亀沢地域水産業再生委員会 組合員数 55 人 イカ釣り漁業（1 経営体）、刺し網漁業（2 経営体）、サケ定置網漁業（1 経営体）、コンブ養殖漁業（15 経営体）、採介藻漁業（45 経営体）、一本釣り漁業（24 経営体）</li> <li>○ 戸井地域水産業再生委員会 組合員数 197 人 イカ釣り漁業（4 経営体）、一本釣り・たこ漁業（39 経営体） マグロ延縄漁業（14 経営体）、採介藻漁業（28 経営体）、 延縄漁業・刺し網漁業（3 経営体）、サケ定置網漁業（1 経営体）、 コンブ養殖漁業（51 経営体）、</li> <li>○ えさん地域水産業再生委員会 組合員数 403 人</li> </ul>
---------------------------	---

	<p>イカ釣り漁業 (94 経営体)、スケトウダラ刺し網漁業 (13 経営体)、マグロ延縄漁業 (10 経営体)、タラ延縄漁業 (30 経営体)、ホッケ刺し網漁業 (44 経営体) エビ籠漁業 (10 経営体)、採介藻漁業 (308 経営体)、定置網漁業 (2 経営体)、コンブ養殖漁業 (107 経営体)、一本釣り漁業 (183 経営体)</p> <p>○ 南かやべ地域水産業再生委員会 正組合員数 831 人 イカ釣り漁業 (4 経営体)、スケトウダラ刺し網漁業 (25 経営体)、エビ・タコ籠漁業 (24 経営体)、タコ漁業 (20 経営体)、大型定置網 (11 経営体)、サケ定置・小定置漁業 (16 経営体)、コンブ養殖漁業 (302 経営体)、採介藻漁業 (120 経営体)、マグロ延縄漁業 (5 経営体)</p> <p>○ 渡島地域水産業再生委員会 構成員数 3 イカ釣り漁業 (100 トン以上 1 隻)</p> <p>合計組合員数 1,629 人 (令和 7 年 3 月 31 日現在)</p>
--	--

## 2 地域の現状

### (1) 地域の水産業を取り巻く現状等

#### ■ 地域の概要

当広域水産業再生委員会は、函館・銭亀沢・戸井・えさん・南かやべの 5 つの漁業協同組合と函館渡島イカ釣り漁業協議会・函館鮭鱒漁業組合の 2 つの業種会で構成しております。当地域の海岸線は約 120 km に及び、25 の漁港と 2 つの港湾があります。また、北海道の南端部に位置し三方を海に囲まれ、北東側は太平洋に、南側は津軽海峡に面し、暖流と寒流が混じりあい潮目を形成することから、日本有数の好漁場となっております。

当地域の漁獲物の水揚げは、令和 6 年度では数量で約 38 千トン、金額で約 142 億円となっており、上位 5 種の漁獲量は、イワシ 34.2%、ブリ 24.5%、コンブ 8.0%、サバ 7.6%、スケトウダラ 4.6% となっております。漁獲高での上位 5 種は、コンブ 40.1%、ブリ 12.4%、イカ 11.3%、ウニ 7.6%、タコ 4.8% となっております。

また、令和 5 年度漁業センサスによると、当地域の漁業経営体数は 1,156 経営体ですが、このうち採藻漁業（主に天然コンブ採取漁業）と海面養殖漁業（主にコンブ養殖漁業）を合計すると全体の 41.1% を占め、全地域でコンブの採藻漁業及び養殖漁業が広く行われており、このほか、イカ釣り漁業やまぐろ延縄漁業、各種刺し網漁業、ウニ・ナマコ・アワビ等採取漁業、定置網漁業などの多様な漁業が営まれています。

新鮮で豊富な海産物は、当地域及び周辺地域に集積している水産加工業の原材料となっているほか、関連する冷蔵・冷凍倉庫業や流通業も多く、さらに、観光産業における魅力の一つとなっていることから、漁業の振興が重要となっております。

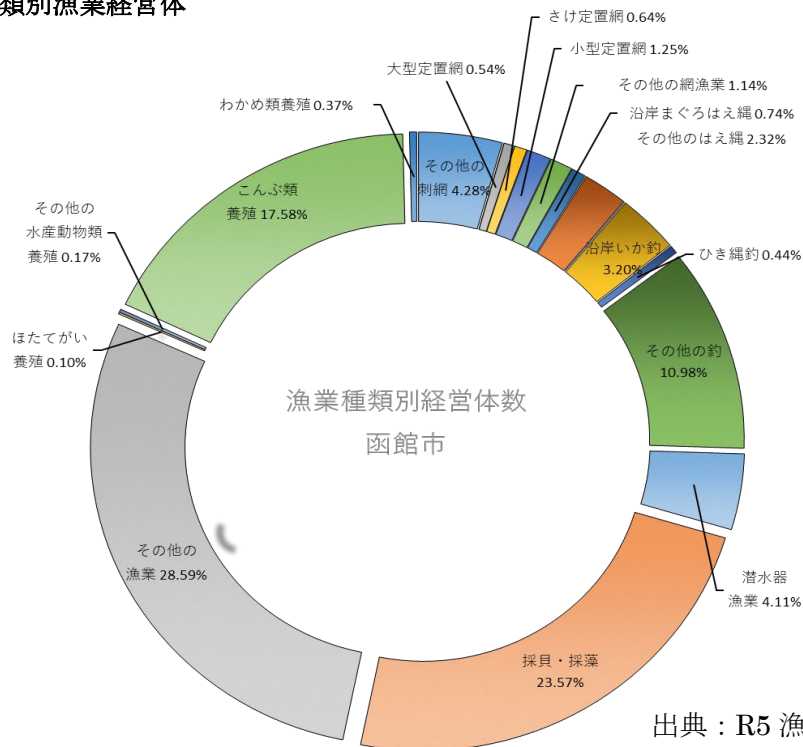
しかし、主要魚種であるスルメイカの記録的な不漁に加えて、サケ・天然コンブの不漁、さらには燃油単価や資材費の高騰による収益の悪化などで、漁業者の高齢化と新規着業者の減少が進み、漁業者が減少している状況にあります。漁業センサスによると、当地域の漁業経営体は、減少傾向にあり平成 5 年は 3,357 経営体でしたが、令和 5 年では 1,156 経

営体となり、30年間で65%減少している状況です。地域の漁業を維持・発展させるためには、担い手の確保が必要であり、そのためには、つくり育てる漁業を推進するとともに、省エネ型機器の導入や作業の機械化、船の大型化などの促進によって、厳しい労働環境を緩和し、収益性を高めるなど、新たに着業しやすい環境を整える必要があります。

はこだて広域水産業再生委員会構成員の所在地



漁業種類別漁業経営体



■ 地域の現状と課題

1 海面漁業が抱える現状と課題

- 近年、海洋環境の変化によって、これまで主要魚種であった、スルメイカやサケ、スケトウダラ、ホッケなどの寒流系魚種の水揚げが減少している一方、ブリなど暖流系の魚種の水揚げが増加しています。

スルメイカについては、水揚げの減少が著しく、需要と供給のバランスが崩れ、価格が高騰しており、イカの街として全国に知られる函館の漁業だけではなく、水産加工業や観光産業に大きな影響があり、特に飲食店やホテル等で需要が高い、「生け簀イカ」や「活イカ」が極端に不足しているため価格の高騰が著しく様々な業態に支障が生じています。

- ブリは近年水揚げが増加しておりますが、地域での食文化があまり浸透しておらず、水産加工場で取り扱う加工ラインが少なく、地域での消費・需要がそれほど多くないため、定置網で大量に水揚げされた場合などには魚価安となることから、価格の向上を図る必要があります。

このことから、消費拡大に向けた「ブリの活用連携促進事業(道)」を進め、産学官協同で新規の消費拡大に向けた様々な取り組みを実施しています。

- 近年、クロマグロの混獲が見られています。WCPFC（中西部太平洋まぐろ類委員会）で合意された保存管理措置に基づいて設定されている我が国のクロマグロ漁獲上限を遵守するために当該地域のマグロ漁業を休漁せざるを得ない事態を避けるため、クロマグロの混獲回避が必要となっています。

スルメイカ漁獲量・高の推移 単位：ト、千円

	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)
漁獲量	1,784	1,990	2,638	1,612	878
漁獲高	1,199,362	1,332,715	2,548,519	2,120,716	983,378
単価	672	670	966	1316	1120

資料出典先：北海道水産現勢

ブリ漁獲量・高の推移 単位：ト、千円

	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)
漁獲量	10,452	6,831	4,890	7,100	9,353
漁獲高	940,629	982,428	1,530,362	1,497,296	1,756,092
単価	90	144	313	211	188

資料出典先：北海道水産現勢

## 2 コンブ漁業が抱える現状と課題

- 当地域は、白口浜真コンブ（しろくちはまマコンブ）・黒口浜真コンブ（くろくちはまマコンブ）・本場折浜真コンブ（ほんばおりはまマコンブ）・ミツイシコンブ・ガゴメコンブが生産され、日本一の生産量を誇るコンブの生産地であり、多くの漁業者が天然・養殖コンブ漁業に従事していますが、近年では、漁業者の高齢化や減少に加え、磯焼けによる天然コンブ藻場の消失で天然コンブの生産量が低下しており、生産量の維持が課題となっています。このことから、令和6年から地方独立行政法人北海道立総合研究機構（以下、道総研という）ではコンブの成熟時期を通常よりも早めるという「成熟誘導技術」を導入し種苗生産の安定化を図っているところです。

さらに、海洋環境の変化によって、養殖コンブ漁業にあっては、芽落ち・脱落などの育成不良や、異物となる付着物の増加、穴開き症の増加などの問題が顕在化してきています。

- また、マコンブについては献上コンブとして知られる白口浜真コンブをはじめ、いずれの銘柄も関西・北陸方面の料亭での利用や高級佃煮・塩コンブの加工用原材料として主に流通しておりますが、銘柄ごとにPR・販売していることから、一般消費者における「函館産マコンブ」としての知名度が道内他地域のコンブに比べて低いため、引き続き「函館真昆布」の統一ブランドの認知を広げ価格を向上させることが課題となっています。
- さらに、漁業者の収入の少ない春先の収入源となっている、養殖コンブを間引いた「春採りコンブ」の需要が高まってきていますが、地区ごとに採取時期などが異なることや規格・品質が一定でないことが課題となっております。

天然コンブ漁獲量・高の推移

単位：ト、千円

	R2	R3	R4	R5	R6
漁獲量	142	66	163	250	161
漁獲高	391,120	372,248	458,371	1,209,028	288,924
単価	2,754	5,640	2,812	4,836	1,795

資料出典先：北海道水産現勢

養殖コンブ漁獲量・高の推移

単位：ト、千円

	R2	R3	R4	R5	R6
漁獲量	3,484	3,230	2,928	3,098	3,321
漁獲高	5,662,264	4,093,461	4,153,994	5,066,957	5,387,527
単価	1,625	1,267	1,419	1,636	1,622

資料出典先：北海道水産現勢

## 3 栽培漁業が抱える現状と課題

- 各地区においては、刺し網漁業等の漁船漁業とウニ・アワビ・ナマコ採取漁業を組み

合わせた漁業の多角化を推進するため、これら対象種の種苗放流等による「つくり育てる漁業」に取り組み、漁業者の収入の安定化に努めています。海洋環境等の変化により、回遊性資源から栽培漁業資源への依存度が高まっていることから、種苗放流数の増大など、さらなる栽培漁業の推進が課題となっています。

- このような中、高齢化や担い手不足・魚価所得の低迷・主要魚種であるイカの低迷を受けて、令和3年度からトラウトサーモンの海面養殖試験を漁港内で実施しており、今後は外海での養殖試験にも着手する予定です。ウニについては、近年、外国人観光客の増加等により国内でのニーズが高まってきているが、本市沿岸域で発生している磯焼けの主たる原因はウニの過密であると考えられることから、海域の海藻類とウニの生態系のバランスについて配慮する必要があります。当地域には戸井地区と恵山地区の2つの種苗センターがありましたが、恵山地区のウニ種苗センターを令和8年3月末に廃止し、戸井地区へ施設の機能を集約したことから、今後は、磯焼けへの影響も配慮しつつ、種苗生産体制とウニ種苗生産個数について見直しを図る必要があります。

また現在は、地域の漁協職員や漁業者の経験に基づき、種苗放流数や放流場所が決められていますが、それに加え、科学的根拠に基づく適正な放流個数を検討するため種苗放流効果を定量的に把握する必要があり、種苗放流事業を継続する上での課題となっています。

#### ウニ種苗センターの概要

名 称	供用開始	生産可能種苗数	所有者
戸井ウニ種苗センター	H5年	エゾバフンウニ 60万個 キタムラサキウニ 105万個	函館市
恵山ウニ種苗センター	H2年	キタムラサキウニ 190万個	函館市
合 計		355万個	

#### 4 中核的担い手確保と育成の現状と問題

- 当地域においては、漁業者の高齢化及び新規着業者の減少により、平成5年には3,357経営体でしたが、令和5年には1,156経営体となり、30年間で65%減少している現状にあります。その一因として、浜の担い手である後継者等が安心して漁業経営を継続していくために必要な漁船の更新や漁労機器の新規購入・更新がままならない状況にあるということが挙げられます。

そのため、つくり育てる漁業を推進するとともに、省エネ型機器の導入や作業の機械化、船の大型化などの促進によって、厳しい労働環境を緩和し、収益性を高めるなど、新たに着業しやすい環境を整え、地域の漁業を維持・発展させる必要があります。

#### (2) その他の関連する現状等

##### 1 観光客等の入込状況

当地域は、年間約500万人以上の観光客が訪れる国内有数の観光地です。民間の調査会社による地域ブランド調査では、例年ランキング上位に位置し、令和6(2024)年の全国市

町村魅力度ランキングでは5年ぶりに全国1位に返り咲くなど、まちの魅力について高い評価を得ています。

観光入込客数については、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた令和2（2020）年度と令和3（2021）年度には大きく減少しましたが、令和4（2022）年度からは回復基調となり、令和6年度の入込客数は統計史上初めて600万人を超えました。

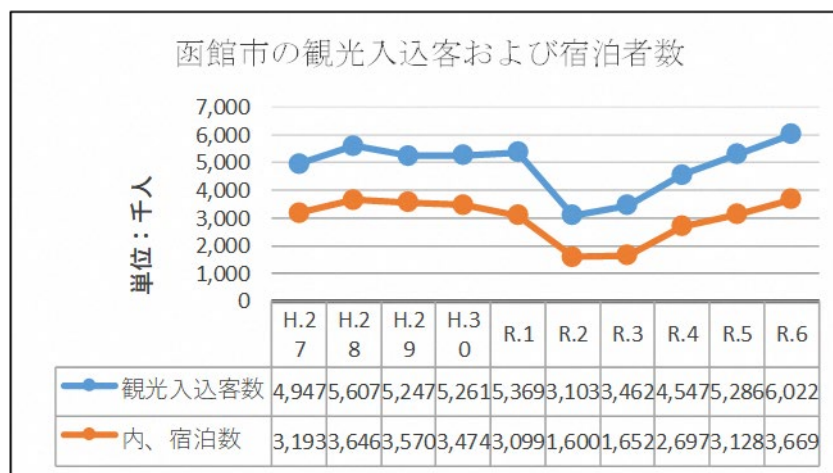
また、コロナ禍で大きく減少した訪日外国人客数も、R4に完成した若松ふ頭「函館クルーズターミナル」を活用したクルーズ船寄港数の増加とともに、令和6年度は過去最高の来函外国人客数を記録しています。

函館市観光アンケート調査（令和4年実施）では、函館を旅行先に選んだ理由として8割以上の方が「函館の食・グルメを楽しみたい」と答えているほか、食に対する設問における自由記述回答の単語出現件数では、「イカ」「ウニ」「海鮮」などの単語が多く挙げられており、食としての海産物が当地域の大きな魅力になっています。

地域ブランド調査 市町村魅力度ランキング

順位	R.1	R.2	R.3	R.4	R.5	R.6
第1位	函館市	京都市	札幌市	札幌市	札幌市	函館市
第2位	札幌市	函館市	函館市	京都市	京都市	札幌市
第3位	京都市	札幌市	京都市	函館市	函館市	京都市

資料出典先：(株)ブランド総合研究所



## 2 函館市活性化総合戦略の推進

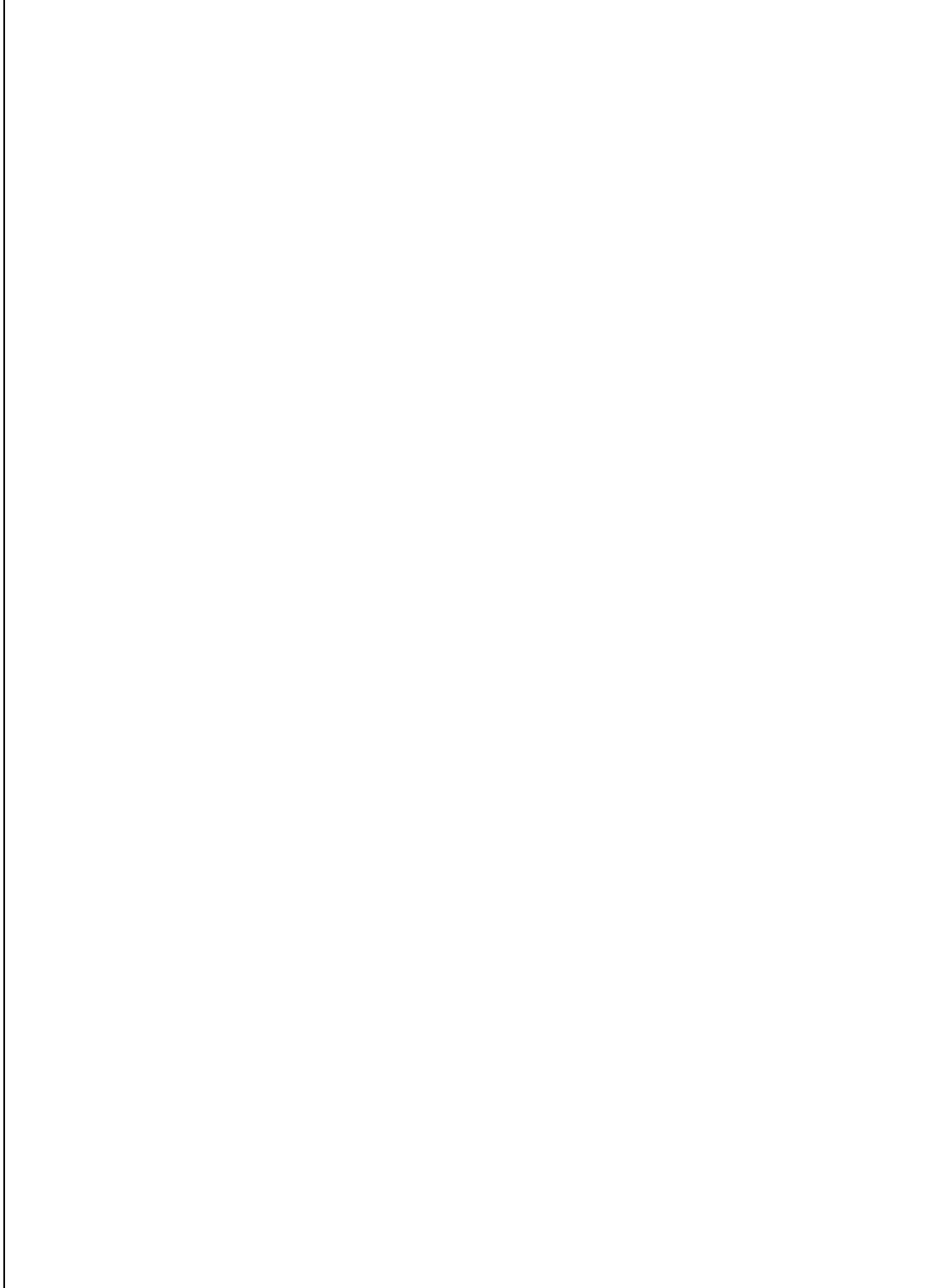
日本国内の総人口が減少するなか、当地域においても少子高齢化と人口減少が急速に進んでいることから、これらが進捗するスピードを少しでも緩やかにし、地域全体が持続的に発展していくための基盤を整えながら、一人ひとりが望む幸せを実現できるよう、「第3期函館市活性化総合戦略」を策定し、目標達成に取り組んでいます。

水産業においては、新規就業や整備に対する支援のほか、スマート水産業や、つくり育てる漁業の推進による生産性の向上などにより、漁業者の所得向上を図ることで魅力ある産業をめざすとともに、担い手の確保に努めることとしています。

3 競争力強化の取組方針

(1) 機能再編・地域活性化に関する基本方針

① 前期の浜の活力再生広域プランの評価（成果及び課題等）



② 今期の浜の活力再生広域プランの基本方針

**【漁獲物の鮮度管理向上等による高付加価値化とクロマグロの資源管理】**

○基本方針

主要魚種であるスルメイカは、海洋環境や漁場形成の変化により記録的不漁となっており、水揚げが低迷していることから、いか釣り漁業者の所得は減少傾向にある。

さらに、飲食店等で使用される「生け簀イカ」や「活イカ」の魚価は高騰している一方で、定置網で大量に漁獲されるイカは、氷を使わない木箱の利用は少なくなってきたものの、「生け簀イカ」や「活イカ」に比べ魚価が3分の1～5分の1程度と比較的安い加工原材料として、加工場に出荷されている。そのため、氷の使用や木箱ではなくプラスチックのケースを使用するなど衛生管理・鮮度保持に努め、「生け簀イカ」や「活イカ」としての出荷を増やし、魚価及び漁業者の所得向上を図る。

加えて、水産業の競争力強化を推進するためには、函館地域で水揚げされるブランド化したブリの知名度向上のほか、マグロ漁業の安定的な操業の実施が必要であることから、クロマグロの混獲が確認された際、混獲を回避（放流作業）するための取組や混獲回避のために必要な機器等の導入を進めることで定置網漁業等の安定的な操業に努める。

○具体的取組

① 出荷方法の改善による価格対策

現在、加工向けとされている定置網のイカについて、鮮度保持を徹底し、「生け簀イカ」や「活イカ」としての出荷を促進し、地域全体の漁業者の所得向上を図る。

② ブリの鮮度管理の徹底と一本釣り活メブリの販路拡大

ブリの鮮度管理の徹底とブランド化した一本釣り活メブリについて、「函館」の高い知名度を生かした直販イベントやインターネット販売を実施する。

③ クロマグロの混獲回避

クロマグロの混獲が見られた際、混獲を回避するための取組を行うことにより、適切な資源管理を実施する。

**【コンブの生産量の増加と価格の向上】**

○基本方針

コンブについては、当地域は日本一の生産量を誇る白口浜真コンブ・黒口浜真コンブ・本場折浜真コンブ・ミツイシコンブ・ガゴメコンブの5種類のコンブが生産されており、「函館」の高い知名度を生かし、名称を統一しブランド化した「函館産コンブ」に対する認知度を向上させ、引き続き消費や販路拡大を図る。

また、漁業者の減少や高齢化による労働力の減少や海洋環境の変化によりコンブ生産量が減少していることから、研究機関と協働で、作業の機械化や養殖技術の改良等に取り組む。

○具体的取組

① 天然・養殖コンブの生産性の向上

漁業者の減少や高齢化によってコンブ生産量が減少していることから、効率化による収益性の向上や加工技術の改良を促進するため、研究機関と協働で、天然・養殖コンブの生産性の向上を図るほか天然母藻を使用しない人工母藻によるコンブ完全養殖技術普及等によりコンブ漁獲量の増産を図る。

② 加工流通業者との連携による PR 活動の実践

函館の高い知名度を生かし「函館産コンブ」として統一した PR を行っているが、一層の浸透化を図るため更なる各種プロモーション活動などを行い、「コンブのまち」としての定着を図る。

③ 加工流通業者と連携した未利用資源の有効活用

養殖コンブを間引いた「春採りコンブ」加工品はネット販売や物産展・飲食店などで活用されており、消費者への需要が高まってきていることから、さらに加工業者、流通関係者等と連携することで春採りコンブの更なる生産・販路拡大を図る。

**【つくり育てる漁業の推進】**

○基本方針

近年、海洋環境の変化などから主要なイカやサケ、天然コンブなど多くの魚種で不漁が続いており、本地域の漁業は厳しい状況下にある。

また、令和2年12月にスタートした改正漁業法で一部魚種に TAC（漁獲可能量）が設定されたことにより、漁業者の経営がこれまで以上に厳しくなることが想定されるため、天然資源への依存度を徐々に減らし、さらなる「作り育てる漁業の推進」が重要となることから、これまでのウニやアワビ、ナマコの種苗放流事業に加え、キングサーモンや函館サーモン（トラウト）の養殖に取り組む。また、ウニ種苗センターの種苗生産体制とウニ種苗生産個数の見直しを行う。

○具体的取組

① キングサーモン完全養殖技術研究および函館サーモン（トラウト）海面養殖事業の推進

当地域は、イカ釣、刺網、一本釣などの漁船漁業や採介藻漁業を主体としているが、近年、主要魚種の不漁の影響で不安定な経営を余儀なくされている状況にある。

こうしたなか、天然資源に依存しない安定的な漁業経営を確立するため、研究機関と協働でキングサーモンの完全養殖技術の研究のほか、函館サーモン（トラウト）の海面養殖試験の実施に取り組む。

また、これまでは港内で養殖試験を実施してきたが、外海でも養殖ができるよう検討・協議を進める。

② ウニ、アワビ、ナマコなどの計画的な種苗放流の推進

ウニやアワビ、ナマコなどの種苗放流について、現在、地域の漁協職員や漁業者の経

験に基づき、放流数や場所が決められている実態にあるため、専門機関との協議を通じ計画的な種苗放流を行い、地域全体の生産性の向上を図る。

また、前期に戸井地区へ集約したウニ種苗センターの種苗生産体制とウニ種苗生産個数について見直しを図る。

## (2) 中核的担い手の育成に関する基本方針

### ① 前期の浜の活力再生広域プランの評価（成果及び課題等）

### ② 今期の浜の活力再生広域プランの基本方針

○ 当地域の漁業は、イカ釣り漁業と天然・養殖コンブ漁業を中心とし、各種刺し網漁業、採介漁業、定置網漁業など、季節や魚種に応じ、多様な漁業を展開しており、こうした多様な漁業者のうち意欲のある者について、前期に引き続き各漁協から推薦を受け、当再生委員会が「中核的漁業者」と認定するとともに、次の取り組みを行う。

・地域全体の収益向上のため、コンブ養殖漁業をはじめ、ウニ・アワビ・ナマコ採取漁業など、つくり育てる漁業と、他の漁業との多角化等を促進する。

・漁業コスト削減のため、漁船の定期的なメンテナンスや、漁労作業の省力化など生産性の向上、省コスト化に資する機器等の導入や漁船リース事業の活用による漁船の更新・大型化を促進する。

・渡島地区水産技術普及指導所、漁業士会および漁協青年部などと連携し、各種研修会等への参加や関係機関の視察を通じて、地域の若手漁業者の資質・意識の向上を図る。

・漁業就業体験の実施や小型船舶操縦士の資格取得者に対する漁業資格取得補助、道立漁業研修所受講費用を補助する漁業研修受講費補助に加え、国の事業等の活用により北海道漁業就業支援協議会と連携した研修生の受け入れなど、新規就業者を増加させるため、受け入れ体制の構築等について、継続して漁協や地域と取り組みを進める。

(3) 資源管理に係る取組

<ul style="list-style-type: none"><li>○ 漁業法、漁業調整規則、TAC を遵守するとともに、関係者と連携し、スケトウダラ等の適正な資源維持を図る。</li><li>○ 全ての漁業者は、漁獲制限サイズを遵守する。</li><li>○ 天然コンブ等の資源増産や養殖コンブの母藻を確保するため、雑海藻を駆除するなど漁場環境を保全する。</li><li>○ ウニやアワビ、ナマコのほか、ヒラメ、マツカワ、クロソイなど魚類の種苗放流に取り組む。特にウニ・アワビについては、資源量の把握に努め、より効率的な種苗放流の実施に向けて検討を行う。</li></ul>
---

(4) 具体的な取組内容

1年目（令和8年度）

取組内容	<p><b>1 漁獲物の鮮度管理向上等による高付加価値化とクロマグロの資源管理</b></p> <p>① 出荷方法の改善による価格対策 各漁協は、現在、加工向けとされている定置網のイカについて、氷の使用と木箱ではなくプラスチックケースを使用するなど鮮度保持を徹底し、「生け簀イカ」や「活イカ」としての出荷を促進する。</p> <p>② ブリの鮮度管理の徹底と一本釣り活メブリの販路拡大 各漁協と定置網漁業者は、定置網で大量に捕獲されるブリの鮮度管理の徹底を図るとともに、一本釣り活メブリについては、「函館」の高い知名度を活かし、直販イベントやインターネット販売を実施する。</p> <p>③ クロマグロの混獲回避 延縄漁業者及び定置網漁業者は、クロマグロの混獲が見られた際、混獲を回避するための取組を行うことにより、適切な資源管理を実施するとともに、定置網漁業者はクロマグロの混獲が確認された際、混獲を回避（放流作業）するための取組や混獲回避のために必要な機器等の導入を進めることで定置網漁業等の安定的な操業に努める。</p> <p><b>2 コンブの生産量の増加と価格の向上</b></p> <p>① 天然・養殖コンブの生産性の向上 各漁協は効率化による収益性の向上や、加工技術の改良の促進、天然母藻を使用しない人工母藻によるコンブ完全養殖技術普及等によるコンブ漁獲量の増産等、研究機関等との協働で生産性の向上を図る</p>
------	---

とともに、成熟誘導技術を導入し、種苗生産の安定化を図る。

② 加工流通業者との連携による PR 活動の実践

一般消費者に対して「函館産コンブ」として統一したブランドの地名度の向上を図るため、各漁協は、加工業者・流通業者の協力を仰ぎ、共同で直販イベントやインターネット販売を実施し、PR の強化を進める。

③ 加工流通業者と連携した未利用資源の有効活用

養殖コンブを間引いた「春採りコンブ」加工品の需要が高まっていることから、各漁協は、加工業者、流通関係者等と連携した春採りコンブの更なる生産・販路拡大を図る。

### 3 つくり育てる漁業の推進

① キングサーモン完全養殖技術研究および函館サーモン海面養殖事業の推進

函館市は、天然資源に依存しない安定的な漁業経営を確立するため、研究機関と協働でキングサーモンの完全養殖技術の研究に取り組む。

また、函館市漁協は、函館サーモン（トラウト）の海面養殖試験の実施とともに、外海でも養殖ができるよう協議・検討を進め、毎年 2 基ずつつけすを増設し水揚げの増加を図る。

② ウニ、アワビ、ナマコなどの計画的な種苗放流の推進

各漁協職員や各漁業者の経験に基づき、ウニやアワビ、ナマコなどは種苗放流数や放流場所が決められている実態にあるため、各漁協は、科学的根拠に基づく計画的な種苗放流を実施するべく水産技術普及指導所等との連携により、地域全体の生産性の向上を目指す。

また、前期に戸井地区へ集約したウニ種苗センターについては、種苗生産体制と種苗生産個数について見直しを図る。

### 4 中核的担い手の確保と育成に向けた取組

① 各漁協は、コンブ養殖漁業をはじめ、ウニ・アワビ・ナマコ採取漁業など、つくり育てる漁業と、他の漁業との多角化等を前期に引き続き促進し、地域全体の漁業経営の安定化を図る。

② 各漁協は、効率的な操業を可能とするため、前期に引き続き省エネ・省力型機器等の導入や老朽化した漁船の更新を促進するとともに、統

	<p>一的な航行速度制限など燃費向上による操業コストの削減や船底状態の改善に取り組み、漁業コストの削減を図る。</p> <p>③ 各漁協は、漁業士会等と連携した指導や研修会への参加や先進地等の視察を前期に引き続き促進し、地域の若手漁業者の技術や意識の向上を図る。</p> <p>④ 各漁協は、漁業就業体験の実施や小型船舶操縦士の資格取得者に対する漁業資格取得補助、道立漁業研修所受講費用を補助する漁業研修受講費補助に加え、国の事業等の活用により北海道漁業就業支援協議会と連携した研修生の受け入れなど、新規就業者を増加させるため、受け入れ体制の構築等について、継続して地域と取り組みを進める。</p>
活用する支援措置等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・競争力強化型機器等導入緊急対策事業（国）</li> <li>・水産業競争力強化金融支援事業（国）</li> <li>・水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業（国）</li> <li>・経営体育成総合支援事業（国）</li> <li>・水産業成長産業化沿岸地域創出事業（国）</li> <li>・広域浜プラン緊急対策事業（クロマグロの混獲回避活動支援）（国）</li> </ul>

2年目（令和9年度）

取組内容	<p><b>1 漁獲物の鮮度管理向上等による高付加価値化とクロマグロの資源管理</b></p> <p>① 出荷方法の改善による価格対策</p> <p>各漁協は、現在、加工向けとされている定置網のイカについて、氷の使用と木箱ではなくプラスチックケースを使用するなど鮮度保持を徹底し、「生け簀イカ」や「活イカ」としての出荷を促進する。</p> <p>② ブリの鮮度管理の徹底と一本釣り活メブリの販路拡大</p> <p>各漁協と定置網漁業者は、定置網で捕獲されるブリの鮮度管理の徹底を図るとともに、一本釣り活メブリについては、「函館」の高い知名度を活かし、直販イベントやインターネット販売を実施する。</p> <p>③ クロマグロの混獲回避</p> <p>延縄漁業者及び定置網漁業者は、クロマグロの混獲が見られた際、混獲を回避するための取組を行うことにより、適切な資源管理を実施するとともに、定置網漁業者はクロマグロの混獲が確認された際、混獲を回避（放流作業）するための取組や混獲回避のために必要な機器</p>
------	--

等の導入を進めることで定置網漁業等の安定的な操業に努める。

## 2 コンプの生産量の増加と価格の向上

### ① 天然・養殖コンプの生産性の向上

各漁協は、効率化による収益性の向上や、加工技術の改良の促進、天然母藻を使用しない人工母藻によるコンプ完全養殖技術普及等によるコンプ漁獲量の増産等、研究機関等との協働で生産性の向上を図るとともに、成熟誘導技術を導入し、種苗生産の安定化を図る。

### ② 加工流通業者との連携による PR 活動の実践

一般消費者に対して「函館産コンプ」として統一したブランドの地名度の向上を図るため、各漁協は、加工業者・流通業者の協力を仰ぎ、共同で直販イベントやインターネット販売を実施し、PR の強化を進める。

### ③ 加工流通業者と連携した未利用資源の有効活用

養殖コンプを間引いた「春採りコンプ」加工品の需要が高まっていることから、各漁協は加工業者、流通関係者等と連携した春採りコンプの更なる生産・販路拡大を図る。

## 3 つくり育てる漁業の推進

### ① キングサーモン完全養殖技術研究および函館サーモン海面養殖事業の推進

函館市は、天然資源に依存しない安定的な漁業経営を確立するため、研究機関と協働でキングサーモンの完全養殖技術の研究に取り組み出荷体制の構築を目指す。

また、函館市漁協は函館サーモン（トラウト）の海面養殖試験の実施とともに、外海でも養殖ができるよう協議・検討を進め、毎年2基ずつつけすを増設し水揚げの増加を図る。

### ② ウニ、アワビ、ナマコなどの計画的な種苗放流の推進

各漁協職員や各漁業者の経験に基づき、ウニやアワビ、ナマコなどは種苗放流数や放流場所が決められている実態にあるため、各漁協は、計画的な種苗放流を実施するべく水産技術普及指導所等との連携により、地域全体の生産性の向上を目指す。

また、ウニ種苗センターについては、種苗生産体制と種苗生産個数について見直しを図る。

	<p><b>4 中核的担い手の確保と育成に向けた取組</b></p> <p>① 各漁協は、コンブ養殖漁業をはじめ、ウニ・アワビ・ナマコ採取漁業など、つくり育てる漁業と、他の漁業との多角化等を促進し、地域全体の漁業経営の安定化を図る。</p> <p>② 各漁協は、効率的な操業を可能とするため、省エネ・省力型機器等の導入や老朽化した漁船の更新を促進するとともに、統一的な航行速度制限など燃費向上による操業コストの削減や船底状態の改善に取り組み、漁業コストの削減を図る。</p> <p>③ 各漁協は、漁業士会等と連携した指導や研修会への参加や先進地等の視察を促進し、地域の若手漁業者の技術や意識の向上を図る。</p> <p>④ 各漁協は、漁業就業体験の実施や小型船舶操縦士の資格取得者に対する漁業資格取得補助、道立漁業研修所受講費用を補助する漁業研修受講費補助に加え、国の事業等の活用により北海道漁業就業支援協議会と連携した研修生の受け入れなど、新規就業者を増加させるため、受け入れ体制の構築等について、継続して地域と取り組みを進める。</p>
活用する支援措置等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・競争力強化型機器等導入緊急対策事業（国）</li> <li>・水産業競争力強化金融支援事業（国）</li> <li>・水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業（国）</li> <li>・経営体育成総合支援事業（国）</li> <li>・水産業成長産業化沿岸地域創出事業（国）</li> <li>・広域浜プラン緊急対策事業（クロマグロの混獲回避活動支援）（国）</li> </ul>

3年目（令和10年度）

取組内容	<p><b>1 漁獲物の鮮度管理向上等による高付加価値化とクロマグロの資源管理</b></p> <p>① 出荷方法の改善による価格対策</p> <p>各漁協は、現在、加工向けとされている定置網のイカについて、氷の使用と木箱ではなくプラスチックケースを使用するなど鮮度保持を徹底し、「生け簀イカ」や「活イカ」としての出荷を促進する。</p> <p>② ブリの鮮度管理の徹底と一本釣り活メブリの販路拡大</p> <p>各漁協と定置網漁業者は、定置網で捕獲されるブリの鮮度管理の徹底を図るとともに、一本釣り活メブリについては、「函館」の高い知名度を活かし、直販イベントやインターネット販売を実施する。</p>
------	---

③ クロマグロの混獲回避

延縄漁業者及び定置網漁業者は、クロマグロの混獲が見られた際、混獲を回避するための取組を行うことにより、適切な資源管理を実施するとともに、定置網漁業者はクロマグロの混獲が確認された際、混獲を回避（放流作業）するための取組や混獲回避のために必要な機器等の導入を進めることで定置網漁業等の安定的な操業に努める

2 コンブの生産量の増加と価格の向上

① 天然・養殖コンブの生産性の向上

各漁協は効率化による収益性の向上や、加工技術の改良の促進、天然母藻を使用しない人工母藻によるコンブ完全養殖技術普及等によるコンブ漁獲量の増産等、研究機関等との協働で生産性の向上を図るとともに、成熟誘導技術を導入し、種苗生産の安定化を図る。

② 加工流通業者との連携による PR 活動の実践

一般消費者に対して「函館産コンブ」として統一したブランドの地名度の向上を図るため、各漁協は、加工業者・流通業者の協力を仰ぎ、共同で直販イベントやインターネット販売を実施し、PR の強化を進める。

③ 加工流通業者と連携した未利用資源の有効活用

養殖コンブを間引いた「春採りコンブ」加工品の需要が高まっていることから、各漁協は、加工業者、流通関係者等と連携した春採りコンブの更なる生産・販路拡大を図る。

3 つくり育てる漁業の推進

① キングサーモン完全養殖技術研究および函館サーモン海面養殖事業の推進

函館市は、天然資源に依存しない安定的な漁業経営を確立するため、研究機関と協働でキングサーモンの完全養殖技術の研究に取り組み出荷体制を構築させる。

また、函館市漁協は函館サーモン（トラウト）の海面養殖試験の実施とともに、外海でも養殖ができるよう協議・検討を進め、毎年2基ずつつけすを増設し水揚げの増加を図る。

② ウニ、アワビ、ナマコなどの計画的な種苗放流の推進

各漁協職員や各漁業者の経験に基づき、ウニやアワビ、ナマコなど

	<p>は種苗放流数や放流場所が決められている実態にあるため、各漁協は、科学的根拠に基づく計画的な種苗放流を実施するべく水産技術普及指導所等との連携により、地域全体の生産性の向上を目指す。</p> <p>また、ウニ種苗センターについては、種苗生産体制と種苗生産個数について見直しを図る。</p> <p><b>4 中核的担い手の確保と育成に向けた取組</b></p> <p>① 各漁協は、コンブ養殖漁業をはじめ、ウニ・アワビ・ナマコ採取漁業など、つくり育てる漁業と、他の漁業との多角化等を促進し、地域全体の漁業経営の安定化を図る。</p> <p>② 各漁協は、効率的な操業を可能とするため、省エネ・省力型機器等の導入や老朽化した漁船の更新を促進するとともに、統一的な航行速度制限など燃費向上による操業コストの削減や船底状態の改善に取り組み、漁業コストの削減を図る。</p> <p>③ 各漁協は、漁業士会等と連携した指導や研修会への参加や先進地等の視察を促進し、地域の若手漁業者の技術や意識の向上を図る。</p> <p>④ 各漁協は、漁業就業体験の実施や小型船舶操縦士の資格取得者に対する漁業資格取得補助、道立漁業研修所受講費用を補助する漁業研修受講費補助に加え、国の事業等の活用により北海道漁業就業支援協議会と連携した研修生の受け入れなど、新規就業者を増加させるため、受け入れ体制の構築等について、継続して地域と取り組みを進める。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・競争力強化型機器等導入緊急対策事業（国）</li> <li>・水産業競争力強化金融支援事業（国）</li> <li>・水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業（国）</li> <li>・経営体育成総合支援事業（国）</li> <li>・水産業成長産業化沿岸地域創出事業（国）</li> <li>・広域浜プラン緊急対策事業（クロマグロの混獲回避活動支援）（国）</li> </ul>

<p>取組内容</p>	<p><b>1 漁獲物の鮮度管理向上等による高付加価値化とクロマグロの資源管理</b></p> <p>① 出荷方法の改善による価格対策 各漁協は、現在、加工向けとされている定置網のイカについて、氷の使用と木箱ではなくプラスチックケースを使用するなど鮮度保持を徹底し、「生け簀イカ」や「活イカ」としての出荷を促進する。</p> <p>② ブリの鮮度管理の徹底と一本釣り活メブリの販路拡大 各漁協と定置網漁業者は、定置網で捕獲されるブリの鮮度管理の徹底を図るとともに、一本釣り活メブリについては、「函館」の高い知名度を活かし、直販イベントやインターネット販売を実施する。</p> <p>③ クロマグロの混獲回避 延縄漁業者及び定置網漁業者は、クロマグロの混獲が見られた際、混獲を回避するための取組を行うことにより、適切な資源管理を実施するとともに、定置網漁業者はクロマグロの混獲が確認された際、混獲を回避（放流作業）するための取組や混獲回避のために必要な機器等の導入を進めることで定置網漁業等の安定的な操業に努める。</p> <p><b>2 コンブの生産量の増加と価格の向上</b></p> <p>① 天然・養殖コンブの生産性の向上 各漁協は、効率化による収益性の向上や、加工技術の改良の促進、天然母藻を使用しない人工母藻によるコンブ完全養殖技術普及等によるコンブ漁獲量の増産等、研究機関等との協働で生産性の向上を図るとともに、成熟誘導技術を導入し、種苗生産の安定化を図る。</p> <p>② 加工流通業者との連携による PR 活動の実践 一般消費者に対して「函館産コンブ」として統一したブランドの地名度の向上を図るため、各漁協は、加工業者・流通業者の協力を仰ぎ、共同で直販イベントやインターネット販売を実施し、PR の強化を進める。</p> <p>③ 加工流通業者と連携した未利用資源の有効活用 養殖コンブを間引いた「春採りコンブ」加工品の需要が高まっていることから、各漁協は、加工業者、流通関係者等と連携した春採りコンブの更なる生産・販路拡大を図る。</p>
-------------	---

	<p><b>3 つくり育てる漁業の推進</b></p> <p>① キングサーモン完全養殖および函館サーモン海面養殖漁業の推進  函館市は、天然資源に依存しない安定的な漁業経営を確立するため、研究機関と協働で出荷体制を構築したキングサーモンの完全養殖に移行する。  また、函館市漁協は函館サーモン（トラウト）の海面における完全養殖に移行する。</p> <p>② ウニ、アワビ、ナマコなどの計画的な種苗放流の推進  各漁協職員や各漁業者の経験に基づき、ウニやアワビ、ナマコなどの種苗放流数や放流場所が決められている実態にあるため、各漁協は、科学的根拠に基づく計画的な種苗放流を実施するべく水産技術普及指導所等との連携により、地域全体の生産性の向上を目指す。  また、ウニ種苗センターについては、種苗生産体制と種苗生産個数について見直しを図る。</p> <p><b>4 中核的担い手の確保と育成に向けた取組</b></p> <p>① 各漁協は、コンブ養殖漁業をはじめ、ウニ・アワビ・ナマコ採取漁業など、つくり育てる漁業と、他の漁業との多角化等を促進し、地域全体の漁業経営の安定化を図る。</p> <p>② 各漁協は、効率的な操業を可能とするため、省エネ・省力型機器等の導入や老朽化した漁船の更新を促進するとともに、統一的な航行速度制限など燃費向上による操業コストの削減や船底状態の改善に取り組み、漁業コストの削減を図る。</p> <p>③ 各漁協は、漁業士会等と連携した指導や研修会への参加や先進地等の視察を促進し、地域の若手漁業者の技術や意識の向上を図る。</p> <p>④ 各漁協は、漁業就業体験の実施や小型船舶操縦士の資格取得者に対する漁業資格取得補助、道立漁業研修所受講費用を補助する漁業研修受講費補助に加え、国の事業等の活用により北海道漁業就業支援協議会と連携した研修生の受け入れなど、新規就業者を増加させるため、受け入れ体制の構築等について、継続して地域と取り組みを進める。</p>
活用する支援措置等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・競争力強化型機器等導入緊急対策事業（国）</li> <li>・水産業競争力強化金融支援事業（国）</li> <li>・水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業（国）</li> <li>・経営体育成総合支援事業（国）</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水産業成長産業化沿岸地域創出事業（国）</li> <li>・広域浜プラン緊急対策事業（クロマグロの混獲回避活動支援）（国）</li> </ul>
--	--

5年目（令和12年度）

取組内容	<p><b>1 漁獲物の鮮度管理向上等による高付加価値化とクロマグロの資源管理</b></p> <p>① 出荷方法の改善による価格対策</p> <p>各漁協は、現在、加工向けとされている定置網のイカについて、氷の使用と木箱ではなくプラスチックケースを使用するなど、鮮度保持を徹底し、「生け簀イカ」や「活イカ」としての出荷を促進する。</p> <p>② ブリの鮮度管理の徹底と一本釣り活メブリの販路拡大</p> <p>各漁協と定置網漁業者は、定置網で捕獲されるブリの鮮度管理の徹底を図るとともに、一本釣り活メブリについては、「函館」の高い知名度を活かし、直販イベントやインターネット販売を実施する。</p> <p>③ クロマグロの混獲回避</p> <p>延縄漁業者及び定置網漁業者は、クロマグロの混獲が見られた際、混獲を回避するための取組を行うことにより、適切な資源管理を実施するとともに、定置網漁業者はクロマグロの混獲が確認された際、混獲を回避（放流作業）するための取組や混獲回避のために必要な機器等の導入を進めることで定置網漁業等の安定的な操業に努める。</p> <p><b>2 コンブの生産量の増加と価格の向上</b></p> <p>① 天然・養殖コンブの生産性の向上</p> <p>各漁協は、効率化による収益性の向上や、加工技術の改良の促進、天然母藻を使用しない人工母藻によるコンブ完全養殖技術普及等によるコンブ漁獲量の増産等、研究機関等との協働で生産性の向上を図るとともに、成熟誘導技術を導入し、種苗生産の安定化を図る。</p> <p>② 加工流通業者との連携による PR 活動の実践</p> <p>一般消費者に対して「函館産コンブ」として統一したブランドの地名度の向上を図るため、各漁協は、加工業者・流通業者の協力を仰ぎ、共同で直販イベントやインターネット販売を実施し、PR の強化を進める。</p> <p>③ 加工流通業者と連携した未利用資源の有効活用</p>
------	--

養殖コンブを間引いた「春採りコンブ」加工品の需要が高まっていることから、各漁協は、加工業者、流通関係者等と連携した春採りコンブの更なる生産・販路拡大を図る。

### 3 つくり育てる漁業の推進

#### ① キングサーモン完全養殖および函館サーモン海面養殖漁業の推進

函館市は、天然資源に依存しない安定的な漁業経営を確立するため、研究機関と協働で出荷体制を構築したキングサーモンの完全養殖に移行する。

また、函館市漁協は、函館サーモン（トラウト）の海面養殖における完全養殖に移行する。

#### ② ウニ、アワビ、ナマコなどの計画的な種苗放流の推進

各漁協職員や各漁業者の経験に基づき、ウニやアワビ、ナマコなどは種苗放流数や放流場所が決められている実態にあるため、各漁協は、科学的根拠に基づく計画的な種苗放流を実施するべく水産技術普及指導所等との連携により、地域全体の生産性の向上を目指す。

また、ウニ種苗センターについては、種苗生産体制と種苗生産個数について見直しを図る。

### 4 中核的担い手の確保と育成に向けた取組

① 各漁協は、コンブ養殖漁業をはじめ、ウニ・アワビ・ナマコ採取漁業など、つくり育てる漁業と、他の漁業との多角化等を促進し、地域全体の漁業経営の安定化を図る。

② 各漁協は、効率的な操業を可能とするため、省エネ・省力型機器等の導入や老朽化した漁船の更新を促進するとともに、統一的な航行速度制限など燃費向上による操業コストの削減や船底状態の改善に取り組み、漁業コストの削減を図る。

③ 各漁協は、漁業士会等と連携した指導や研修会への参加や先進地等の視察を促進し、地域の若手漁業者の技術や意識の向上を図る。

④ 各漁協は、漁業就業体験の実施や小型船舶操縦士の資格取得者に対する漁業資格取得補助、道立漁業研修所受講費用を補助する漁業研修受講費補助に加え、国の事業等の活用により北海道漁業就業支援協議会と連携した研修生の受け入れなど、新規就業者を増加させるため、受け入れ体制の構築等について、継続して地域と取り組みを進める。

活用する支援措置等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・競争力強化型機器等導入緊急対策事業（国）</li> <li>・水産業競争力強化金融支援事業（国）</li> <li>・水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業（国）</li> <li>・経営体育成総合支援事業（国）</li> <li>・水産業成長産業化沿岸地域創出事業（国）</li> <li>・広域浜プラン緊急対策事業（クロマグロの混獲回避活動支援）（国）</li> </ul>
-----------	--

（５）関係機関との連携

<ul style="list-style-type: none"> <li>○ コンブ養殖等の取組について、地方独立行政法人北海道立総合研究機構函館水産試験場、渡島地区水産技術普及指導所と連携し、技術的な助言・指導を受け取り組む。</li> <li>○ 漁業士会等と連携した地域の若手漁業者の技術や意識の向上を図るほか、新規就業者を増加させるため北海道漁業就業支援協議会と連携した研修生の受け入れなどに取り組む。</li> <li>○ 各漁協は、水産加工業者等と連携した「函館産コンブ」、「春採りコンブ」のPR強化、生産・販路拡大に取り組む。</li> </ul>
---

（６）他産業との連携

<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 飲食店、小売店、宿泊施設のほか、道の駅などの観光施設等と連携した水産物のPR活動や販売に取り組む。</li> </ul>
---

４ 成果目標

（１）成果目標の考え方

<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 天然母藻を使用しない人工母藻によるコンブ完全養殖技術普及及び成熟誘導技術の導入などを実施することによりコンブ漁獲量の増産を図ることから、コンブ漁獲量の増加を成果目標に設定する。</li> <li>○ 新規就業者の受け入れ体制の構築等により新規着業者の増加を図ることから、新規就業者の増加を成果目標に設定する。</li> </ul>
--

(2) 成果目標

① 機能再編・地域活性化の取組に係る成果目標

コンブ漁獲量の増加	基準年	令和 2～6 年度 5 中 3 年平均	3,375 トン
	目標年	令和 12 年度	3,544 トン

② 中核的担い手の育成の取組に係る成果目標

新規着業者数の増加	基準年	令和 2～6 年度	5 カ年合計	66 人
	目標年	令和 8～12 年度	5 カ年合計	69 人

(3) 上記の算出方法及びその妥当性

<p>○ <b>コンブ漁獲量の増加</b></p> <p>・ コンブ漁獲量については、過去 5 年間に於いて、天然コンブ・養殖コンブの水揚量を合計し、年度ごとに算出したトン数の最大値と最小値を除いた 5 中 3 年平均漁獲量とし、生産性の向上および新規就業者数の確保に取り組むことで、天然コンブ・養殖コンブ漁獲量を 5% 増加させることを目標とする。</p> <p style="text-align: center;"><b>天然コンブ・養殖コンブ漁獲量の推移</b> <span style="float: right;">単位：トン</span></p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>漁獲量</td> <td>3,626</td> <td>3,296</td> <td>3,091</td> <td>3,348</td> <td>3,482</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">資料出典先：北海道水産現勢</p> <p>○ <b>新規着業者数の増加</b></p> <p>・ 基準年新規着業者数については、過去 5 年間に於ける各漁協の新規着業組合員数を合計した人数とし、当プランの各種施策の効果により、5% の増加 (3 人) を図ることを目標とする。</p> <p style="text-align: center;">過去 5 年間の新規着業者合計 66 人 × 1.05 = 69 人 (3 人の増)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="6"><b>新規着業者実績</b></th> <th>単位：人</th> </tr> <tr> <th>漁協名/年度</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>函館市</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>銭亀沢</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>戸井</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>えさん</td> <td>2</td> <td>6</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>12</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>南かやべ</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>9</td> <td>4</td> <td>10</td> <td>35</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>8</td> <td>13</td> <td>12</td> <td>7</td> <td>26</td> <td>66</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">資料出典先：各漁業協同組合調査</p>		R2	R3	R4	R5	R6	漁獲量	3,626	3,296	3,091	3,348	3,482	<b>新規着業者実績</b>						単位：人	漁協名/年度	R2	R3	R4	R5	R6	合計	函館市	0	1	0	0	3	4	銭亀沢	0	0	0	0	1	1	戸井	0	0	1	0	0	1	えさん	2	6	2	3	12	25	南かやべ	6	6	9	4	10	35	合計	8	13	12	7	26	66
	R2	R3	R4	R5	R6																																																															
漁獲量	3,626	3,296	3,091	3,348	3,482																																																															
<b>新規着業者実績</b>						単位：人																																																														
漁協名/年度	R2	R3	R4	R5	R6	合計																																																														
函館市	0	1	0	0	3	4																																																														
銭亀沢	0	0	0	0	1	1																																																														
戸井	0	0	1	0	0	1																																																														
えさん	2	6	2	3	12	25																																																														
南かやべ	6	6	9	4	10	35																																																														
合計	8	13	12	7	26	66																																																														

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生広域プランとの関連性
競争力強化型機器等導入緊急対策事業（国）	本事業により、省エネ効果のある機器を導入し、漁業経費の削減を目指すとともに高性能の機器を導入することによって、生産力の強化を行い、漁業所得の向上を図る。
水産業競争力強化金融支援事業（国）	本事業により、漁業機器の導入や漁船リースを行う者が借り入れる資金への利子補給等を行う。
水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業（国）	本事業により、中核的漁業者が老朽化した漁船の更新を支援することで、漁業生産の安定と所得の向上を図る。
経営体育成総合支援事業（国）	本事業により、意欲ある新規就業者の確保を図る。
水産業成長産業化沿岸地域創出事業（国）	本事業により、中核的担い手を中心とした浜の構造改善に必要な漁船・漁具等の導入を進め、漁業生産の安定と所得の向上を図る。
広域浜プラン緊急対策事業（クロマグロの混獲回避活動支援）（国）	クロマグロの混獲が確認された際、混獲を回避（放流作業）するための取組や混獲回避のための必要な機器等の導入を進めることで定置網漁業等の安定的な操業に努める。